

## ごあいさつ

<sup>やなかえむるいす</sup>  
「谷中M類栖/If」が芸工展に参加し、画家・<sup>まるいぎんげい</sup>丸井金猯の遺品紹介を始めて9年目となります（芸工展以外を含めると19回目の展示）。

今年は「<sup>うまどし</sup>午年」の干支にちなみ、金猯の「馬」作品を主とした展示企画「金猯馬考」展を開催いたします。2008年一宮市博物館主催の特別展「いまあざやかに 丸井金猯展」講演会でのこと。当学芸員の伊藤和彦さんから「金猯先生は馬をモチーフとした作品を多く手掛けられていますが、馬に何か特別な想いがあったのでしょうか」との質問が出たとき、答えることができませんでした。

今もそれに対する明確な答えがあるわけではありません。しかし、こうして馬の描かれた作品をならべ、馬に囲まれながらお客さんと会話することで、金猯の馬への想い、いや、それよりも前に「人はなぜ馬の絵を描いてきたのか？」という根源的な問いをみなさんと様々な角度から考察（お話）する場が作れればと思っています。

そのサブツールとして、午年に主催者が受け取ったグッドでナイスアイデアの年賀状を展示し、さらには4月に宝塚市立中央図書館の「宝塚歌劇のあゆみ展」に遠征してきた『薫風』下絵を観ながらのオトナの塗り絵ワークショップも開催いたします（コドモも参加可）。

年賀状展示にご快諾いただきました皆様とワークショップにご協力くださった皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。ごきげんよう。

主催 谷中M類栖